

**第 10 回**  
**自治体国際交流表彰**  
**(総務大臣賞)**

**受賞団体事例紹介**

総 務 省  
一般財団法人自治体国際化協会

# 自治体国際交流表彰の概要

## 1 事業の目的

本表彰事業は、日本の自治体と海外の自治体との姉妹自治体提携等に基づく交流活動（以下、「自治体国際交流」という。）のうち、創意と工夫に富み、地域の振興に資するような取り組みを行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することによって、自治体国際交流の更なる活性化を図り、もって、地域の国際化に資することを目的に、平成18年度から毎年度実施しております。第7回表彰より名称を「姉妹自治体交流表彰」から「自治体国際交流表彰」と変更し、姉妹自治体交流だけでなく、特定分野の交流などについても広く募集の対象といたしました。

## 2 主催

総務省、一般財団法人自治体国際化協会

## 3 表彰対象

先進性、独自性、継続性、活発性、協働性・連携性、及び効果等の面から優れた自治体国際交流を行っている都道府県、政令指定都市、その他の市区町村、及び地域国際化協会・国際交流協会等の民間非営利団体を対象とします。

## 4 賞の内容

総務大臣賞 3団体以内

## 5 応募・審査

応募のあった団体、及び都道府県・政令指定都市から推薦のあった団体について、別途設置している「自治体国際交流表彰審査委員会」（委員長：中邨章 明治大学政治経済学部名誉教授）における審査を経て、総務省及び一般財団法人自治体国際化協会が受賞団体を決定します。

第10回表彰事業では、24団体から応募があり、厳正な審査の結果、以下の3団体に決定しました。

### 【総務大臣賞】

雫石町国際交流協会（岩手県雫石町）、ときめき国際学校実行委員会及び小田原市（神奈川県）、わだやま国際文化交流協会（兵庫県朝来市）

### 【問い合わせ先】

一般財団法人自治体国際化協会 交流支援部交流親善課

住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目7番 相互半蔵門ビル6階

電話：03-5213-1723 FAX：03-5213-1742 E-mail：shimai@clair.or.jp

URL：http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/hyoushou.html



# 総務大臣賞

## 雫石町国際交流協会

提携先:バート・ヴィンプフェン市、ネッカーズルム市(ドイツ連邦共和国)  
提携年月日:1995年2月10日



## ドイツ友好都市青少年留学の翼

地域の概要	交流事業の概要
<p data-bbox="363 562 448 591">雫石町</p>  <p data-bbox="209 842 608 1254">◇人口:17,178人(H28.5月末) ◇面積:608.82km<sup>2</sup> ◇概要:雫石町は、岩手県盛岡市の西方約16kmに位置し、総面積608.82km<sup>2</sup>と広大で、岩手山や駒ヶ岳など雄大な山岳美や水田など豊かな自然と景観に恵まれています。小岩井農場をはじめ、温泉やスキー場、ゴルフ場など岩手山南麓を中心に数多くのレジャースポットがあり、四季を通じて雄大な自然の中を楽しむことができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 1992年に雫石町国際交流協会が設立され、1995年にバート・ヴィンプフェン市と友好都市関係を締結、後にネッカーズルム市も交流先に加わり、活発な交流事業を行っています。</li><li>● 一民間団体が一自治体との友好都市関係を締結し、継続して交流が行われていることは極めて珍しく、交流事業の一環として実施している交換留学事業「ドイツ友好都市青少年留学の翼」は、平成10年以降、当町から16回120名、ドイツから14回122名が参加しています。</li><li>● 交換留学事業の交流のみならず、サッカーチームによる交流試合や町内民俗芸能団体がドイツに訪問し「さんさ踊り」を披露するなど、文化・スポーツ面の交流派遣も行われています。</li><li>● 東日本大震災直後には、交換留学事業に参加したドイツの学生や卒業生が中心となって救援募金を立ち上げ、義援金が日本に届けられました。当町から交流事業に参加したOB・OGで構成する雫石・ドイツ翼の会および町国際交流協会が岩手県沿岸部の学校にその善意を届けています。ドイツの学生が日本を訪れた際は被災地を訪問し、被災地の方々との交流や見学を通じ、震災への理解を深めています。また、帰国後は報告会を行い、雫石町のことだけでなく、被災地の状況も伝える活動を行っています。</li></ul>
<p data-bbox="209 1288 608 1366">バート・ヴィンプフェン市、ネッカーズルム市</p>  <p data-bbox="209 1639 608 2072">【バート・ヴィンプフェン市】 ◇人口:6,883人◇面積:19.38km<sup>2</sup> 【ネッカーズルム市】 ◇人口:26,828人◇面積:24.94km<sup>2</sup> ◇概要:バート・ヴィンプフェン市は、充実した保養施設に加え、中世の歴史ある街並みが残り、旧市街地帯は保護文化財となっています。ネッカーズルム市は、古くはワイン製造が主要産業でしたが、19世紀後期に工業都市となり、自動車メーカーで有名なアウディの工場が置かれています。</p>	<p data-bbox="922 1563 1134 1601"><u>評価のポイント</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>⇒ 海外派遣者がOB・OG会を組織し、事業のサポートをしたり、交流を継続する仕組みをつくったことや、震災時には被害を受けた学校の子どもを救う救援募金を双方で行ったことなど、双方向性の関係性を築いていること、雫石ならではの文化交流にも取り組んでいることを評価する。ドイツ学生が現在も被災地訪問を続けていることは重要。</li><li>⇒ ホームステイ型の青少年交換留学で、よくある交流スタイルだが、国際交流協会が独自に相手国自治体と友好交流関係を結んでいる点は評価に値する。</li><li>⇒ 交流先の近隣市にも交流の幅が広がっており、この点も高く評価できる。</li></ul>



ドイツ人学生とともに「少子高齢化」についてディスカッションを行う雫石町の生徒



ホストチューデントが通う高校の授業(はんだごてを使った作品作り)に参加する雫石町の生徒



毎年恒例で行われている日本文化体験



訪問都市ネッカーズルム市にあるアウディ工場をドイツ人学生と共に見学



救援募金で送られた義援金を釜石市立鶴住居小学校長に渡す「ドイツ・翼の会」会長



【被災地訪問】震災の爪痕が深く残る田老観光ホテル前での集合写真

**【問い合わせ先】**

雫石町教育委員会 生涯学習課

住所：〒020-0555 岩手県岩手郡雫石町上曾根田 114

電話：019-692-4181

E-mail：shakyou@town.shizukuishi.iwate.jp

# 総務大臣賞

ときめき国際学校実行委員会  
神奈川県小田原市

提携先: マンリー姉妹都市委員会、  
マンリー市(オーストラリア連邦)  
交流開始年: 1991年



## ときめき国際学校

### 地域の概要

#### 小田原市



◇人口 193,621人(5月1日現在)  
◇面積 114.06K㎡  
◇概要 小田原は、戦国時代に後北条氏の「城下町」として発展し、江戸時代には東海道屈指の「宿場町」として栄え、明治期には政財界人や文化人たちの「別荘、居住地」として愛されてきた、神奈川県西地域の中心都市です。緑豊かな山、清らかな川、雄大な海、肥沃な平野、そして温暖な気候。多くの先人によって築かれた長い歴史と伝統・文化。「市民の力で未来を拓く希望のまち」の実現を目指しています。

#### マンリー市



◇人口 44,786人  
◇面積 15.14k㎡  
◇概要 オーストラリア最大の都市シドニーの近郊にあるリゾート地で、サーフィンやライフセービングが盛んです。1年を通して温暖な気候と、丘陵から紺碧の海を望む展望に魅せられて、シドニーに住む人にとって憧れの住宅地でもあります。平成28年5月12日からワリング市、ピットウォーター市と合併し、ノーザンビーチ市となりました。

### 交流事業の概要

- 1990年、青少年の国際意識の向上、地域の国際化推進を目的に、「ときめき国際学校実行委員会」が設立され、1991年に小田原市とマンリー市が友好都市となり、「ときめき国際学校」を実施しています。平成28年度で26年目を迎え、これまでの参加者数は1,448人となります。
- 「ときめき国際学校」は、年間プログラム（事前研修、国内交流、海外交流、事後研修）の構成により、参加生徒に自ら考え、行動する機会を与えています。また、多くの市民スタッフ、公募ホストファミリー、地域の学校等の協力を得て、実施しています。
- 参加生徒の交流に留まらず、卒業後の参加生徒による活動も活発化しています。参加者OBによるOB会の活動やときめきOB有志による組織「ときめきタスクフォース」が平成25年度から結成し、平成26年度から研修の企画及び運営を担当しています。
- 両市の友好の証として交流開始後10周年から5年ごとに周年事業を実施しています。
- 両市の交流がオーストラリア国内で評価され、オーストラリア姉妹都市委員会から3度に渡り表彰（平成18年11月ナショナル・アワード「文化交流部門」、平成19年11月「青少年事業部門」、平成22年7月「単体事業部門」）を受けています。

### 評価のポイント

- ⇒ 市と市民団体の協議を評価したい。相互の理解が一層進展することが望まれる
- ⇒ 市民主体の国際交流を推進し、支える仕組みができていて、持続可能な交流活動が可能である。
- ⇒ 交流事業において、青少年の育成、市民の国勢意識の向上という明確な目的をもち、それにそった事業内容になっている。青少年が参加者から、担い手になるためのしくみをつくっていることは、自身の経験を生かすだけでなく、受益者として、地域社会への貢献を果たすことにもなる。
- ⇒ オーストラリア姉妹都市委員会から3度表彰を受けていることは、交流が一方通行でなく、相手国でも評価されていることを示しており、今後の当事業の一層の活性化が期待される。



【小田原クロス ODAWARA CL】1996年  
友好の証として、「小田原クロス」設置



【20周年事業】2010年  
相互交流20周年を記念して、ペナント交換



【平和式典】2015年参加生徒が、広島戦後  
70周年を振り返る平和式典に参列



【開校式】交流スタート初日。25年以上にわ  
たる友好と絆



【日本文化体験】市民スタッフの皆さんと共  
に、浴衣・書道・甲冑・折り紙を体験



【25周年事業】2015年  
25周年記念公式パーティを実施

【問い合わせ先】

小田原市文化部文化政策課

住所：〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪 300 番地

電話：0465-33-1703 FAX：0465-33-1526

E-mail: [bunka@city.odawara.kanagawa.jp](mailto:bunka@city.odawara.kanagawa.jp)

URL : <https://www.city.odawara.kanagawa.jp/>

# 総務大臣賞

わだやま国際文化交流協会

提携先: 内蒙古自治区人民教育基金会、  
呼和浩特市民族学院外語系日本語  
学科(中華人民共和国)

提携年月日: 1988年6月



## 日本語研修短期留学生招聘事業

### 地域の概要

#### 朝来市



◇人口: 31,679人 (H28.4.30 現在)  
◇面積: 403.06 km<sup>2</sup>  
◇概要: 2005年に旧朝来郡4町(生野町・和田山町・山東町・朝来町)が合併して誕生した朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、日本海へ流れる円山川や瀬戸内海に流れる市川などの源流を発する山々に囲まれた自然豊かなまちです。また、茶すり山古墳、竹田城跡、生野銀山などの歴史遺産や文化遺産等も数多くあり、これらの恵まれた環境を生かしながら「あなたが好きなまち・朝来市」の実現に向けた取り組みを進めています。

#### フフホト市 呼和浩特市



◇人口: 3,030,000人 (2016年現在)  
◇面積: 17,224 km<sup>2</sup>  
◇概要: 北京の西北西 669kmに位置し、飛行機で1時間のところにあり、内蒙古自治区の中心都市となっています。呼和浩特市とはモンゴル語で「青い城」を意味し、市郊外には大草原が果てしなく広がり、羊や馬が放牧され、移動式テントである「パオ」が訪問客の人気を呼んでいます。

### 交流事業の概要

- わだやま国際文化交流協会は、1988年に中国内蒙古自治区との交流が始まったことを契機として発足しました。当時、内蒙古自治区の西部は中国の中でも日本への関心が高く、多くの学校で日本語を第一外国語に設定していましたが、指導者及び指導資料が不足していたため、「中国に正しい日本語を贈る運動」を交流事業の根幹に据え、指導のための教材提供をはじめ、日本語教師を日本に招聘し、「生きた日本語」を研修する事業を1989年から開始しました。本年度で25回目を数え、現在は日本語教師だけでなく、日本語を専攻する学生も招聘しています。
- 研修期間中、研修生は当協会会員宅にホームステイしながら日本の生活習慣を体験したり、地域の伝統行事に参加したりと、市民との交流を図っています。併せて、日本語の指導資格を有する協会会員による日本語の特別クラスを受講し、日本語表現を磨くとともに、市内の小・中学校で児童生徒らに内蒙古の生活様式や自然環境を紹介し、本市における国際理解教育の推進にも寄与しています。
- 近年では、近隣の大学で授業体験や留学生との交流を行ったほか、福祉ボランティア活動への参加、モンゴル料理教室、着物の着付け・茶道体験など、多岐にわたるプログラムを実施しています。
- また、交流のあり方の検討や研修生選考のため、毎年内蒙古自治区へ教育視察団を派遣し、今後の活動に向けた協議も行っています。

### 評価のポイント

- ⇒ 地道な取組を継続し、中国の中でも交流機会の設定・継続が簡単ではない内蒙古自治区との間で長期にわたる信頼関係を構築してきた点が評価できる。
- ⇒ 日本への関心が高い内モンゴル西部地域のフフホト民族学院に焦点を絞り、「日本語検定試験」の受験に資する支援を継続的に実施している点が特徴的で、これを契機に近隣大学との連携が深まったことは評価すべきである。ケーブルテレビ等で市民の9割が交流事業を承知している点も優れている。
- ⇒ 内蒙古自治区という地域性を考慮すると、26年の継続性は評価できるもので、研修生のその後の活躍や町民の理解度・参加度は高く、テーマ性を持った交流事業のあり方といえる。



市内中学校での日本語研修生による授業  
内蒙古の生活様式や自然環境を紹介



日本語研修生は近隣の大学も訪問  
授業への参加や留学生との交流も



着物の着付けと茶道を体験する日本語研修生。日本の伝統・文化にふれる機会に



内蒙古自治区人民教育基金会での協議  
今後の交流のあり方について話し合う



呼和浩特民族学院での日本語研修候補生の  
面接のようす



呼和浩特民族学院では日本語授業も視察  
過去の研修生との面談も

【問い合わせ先】

朝来市役所市民文化部和田山地域振興課

住所：〒669-5292 兵庫県朝来市和田山町東谷 2 1 3 番地 1

電話：079-672-6137 FAX：079-672-4041

E-mail：wadayama-chiiki@city.asago.hyogo.jp



